2022 年 7 月 28 日

各　位

株式会社　北海道銀行

北海道産「山田錦」を使用した試験醸造酒の発表について

北海道銀行（頭取 兼間 祐二）は、「道銀・酒米プロジェクト」として、有限会社加藤農場（代表取締役 加藤 穣、芦別市）による酒造好適米「山田錦」栽培の取り組みを支援してきました。

このたび、この山田錦を使った道内の酒造会社６社による試験醸造酒がそれぞれ一般販売されることとなりましたのでお知らせいたします。

当行では、北海道の基幹産業である農業を支援するための専門部署「アグリビジネス推進室」を中心に、農業経営の課題解決の支援に取り組んでいます。「道銀・酒米プロジェクト」は、「道銀・農業経営塾」の第１期生である加藤代表から「山田錦の栽培にチャレンジしたい」との相談を受け、経営支援の一環として、平成 28 年より当行を事務局にスタートしました。

「山田錦」は兵庫県で生まれ、酒米の代表として高く評価されています。寒冷の地・北海道で栽培することは不可能と考えられていた中、毎年、生育・生産状況を検証しながら、粘り強く試験栽培を続けた結果、一定の収穫が得られるようになり、本年、北海道酒造組合の協力による初めての本格的な試験醸造へ至ったものです。

今後も、「地域共栄」「公正堅実」「進取創造」の経営理念のもと、お客さまの経営課題解決を通じて、地域経済・地域社会の活性化に貢献してまいります。

記

１．取り組み内容

（１）概要

・加藤代表から自らの夢である「酒米の横綱と言われる山田錦を北海道で栽培したい」と相談があり、平成 28 年に学識経験者などを交え、当行を事務局とするプロジェクトを立ち上げました。

・以後、加藤農場において、試行錯誤しながら試験栽培を進めていったところ、令和３年の北海道産「山田錦」について、醸造に利用できる状況となりました。

・令和３年産「山田錦」について、北海道酒造組合を通じて道内の酒造会社６社に協力いただき、初めて本格的な試験醸造が行われました。

・今回の試験醸造酒の一般販売は、プロジェクトの一定の成果および一つの節目となるものであり、コロナ禍で消費が落ち込む日本酒の消費拡大の一助となることを期待しています。

（２）当行の役割

当行は、今回の取り組みの推進母体である「道銀・酒米プロジェクト」の事務局として、以下のようなプロジェクトの中枢機能を担い、取り組みをサポートしています。

①兵庫県の酒米である「山田錦」の栽培特性や先進地視察先の選定

②年間実施計画の策定や実施結果のとりまとめ、および現地調査や意見交換会の実施

③北海道酒造組合、北海道農政事務所、札幌国税局など関係諸機関との情報共有と連絡調整

２．試験醸造酒発表会

（1）日　時　2022 年 7 月 28 日（木）14 時 00 分～15 時 30 分

（2）場　所　北海道銀行本店ビル 6 階

（3）出席者　「道銀・酒米プロジェクト」関係者

試験醸造の酒造会社 6 社の関係者

３．プロジェクト協力機関

（1）道銀・酒米プロジェクト

	構成機関	役割
①	代　表　松井 博和	学識経験者
②	副代表　西山 泰正	学識経験者
③	有限会社 加藤農場	生産農場
④	NTT ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｽﾞ株式会社 北海道支社	情報協力
⑤	農林水産省 北海道農政事務所	オブザーバー
⑥	株式会社 北海道銀行	事務局

（2）試験醸造

	酒造会社	所在地
①	小林酒造 株式会社	夕張郡栗山町錦 3 丁目 109 番地
②	国稀酒造 株式会社	増毛郡増毛町稲葉町 1 丁目 17 番地
③	日本清酒 株式会社	札幌市中央区南 3 条東 5 丁目 2 番地
④	田中酒造 株式会社	小樽市色内 3 丁目 2 番 5 号
⑤	福司酒造 株式会社	釧路市住吉 2 丁目 13-23
⑥	三千櫻酒造 株式会社	上川郡東川町西 2 号北 23 番地
※	北海道酒造組合（協力）	札幌市豊平区豊平 2 条 1 丁目 1-1 第 7 ナベビル

４．該当するＳＤＧｓの目標

SDGs は Sustainable Development Goals の略称で、2015 年に国連で採択された 2030 年までに達成すべき 17 の目標と 169 の具体的なターゲットを定めた「持続可能な開発目標」です。
ほくほくフィナンシャルグループは、2019 年 4 月に「SDG s 宣言」を表明しました。

以　上

＜本件に関するお問い合わせ先＞
北海道銀行　アグリビジネス推進室　木村・松田　TEL 011-233-1066
広報ＣＳＲ室　小山・西東　TEL 011-233-1005